ISSN 0389-8636

国文学研究

第百七十三集

紅葉賀巻の藤壺の歌「袖ぬるる～」の解釈をめぐって
――源氏物語の和歌の表現と場面形成――　吉見健夫　1

岩波文庫『藤村詩抄』における編集の意味
――一九二〇年代の藤村における自己イメージ形成との関係から――　栗原悠　13

近松秋江『黒髪』連作の空間構成
――「路地」と「別天地」の間で――　中島国彦　24

明治期国語辞書における仮名字体および仮名文字遣い　銭谷真人　62

〈書評〉
岩佐壮四郎著『島村抱月の文藝批評と美学理論』　大井田義彰　37
佐久間保明著『残照の日本近代文学　一九二〇年前後』　河野龍也　40
中山弘明著『第一次大戦の〈影〉　世界戦争と日本文学』
『戦間期の「夜明け前」――現象としての世界戦争』　紅野謙介　44

二〇一三年度修士論文・卒業論文題目
新刊紹介　彙報　編集後記

早稲田大学国文学会

目次

美濃本『急用間合即坐引』とその周辺　高梨信博　1

わが国最初期のコクトオ受容と堀辰雄
——その独自のコクトオ観——　宮坂康一　15

京阪式アクセント地域における3拍形容詞のアクセント
——淡路島・大阪府南部を中心に——　山岡華菜子　47

〈書評〉

銚武彦著『鎌倉時代中後期和歌の研究』　石澤一志　27

滝口明祥著『井伏鱒二と「ちぐはぐ」な近代
漂流するアクチュアリティ』　古川晴彦　31

田村景子著『三島由紀夫と能楽—『近代能楽集』、
または堕地獄者のパラダイス—』　葉名尻竜一　34

新刊紹介　彙報　編集後記

前号